

第51回富山市消防研究発表会を開催しました！！

令和3年2月4日(木)、富山市消防局にて第51回富山市消防研究発表会が開催され、富山市消防局8消防署から14名が出場しました。

「消防研究発表会」とは？

消防研究発表会とは、消防職団員が火災や救急などの現場活動や日常業務の中で考案した消防機器の改良・開発、研究について発表するものです。



〈発表会結果〉

入賞

- ・富山消防署東部出張所 消防士 深井亮汰
「全身固定時も気道確保を容易にするヘッドイモビライザーの考案について」
- ・富山北消防署和合出張所 消防士 荒木孝治
「意識の無い傷病者の両手を固定する器具の考案について」

努力賞

- ・富山消防署救急課 消防士長 宮口博光
「スライド式ターポリン担架の考案について」
- ・富山消防署消防課 消防士 水野阿礼
「消防活動用マルチシートの開発について」
- ・富山北消防署消防課 消防士長 松原 司
「水難救助用器具の開発について」
- ・水橋消防署 消防士 舘野りょうま
「空気ボンベを利用した排煙器具の開発について」

上記の入賞した2作品は、令和3年度に京都市にて開催される、「第61回全国消防長会東近畿支部消防研究会」への応募候補となります。

～入賞した2作品の紹介～



富山消防署 東部出張所 消防士 深井亮汰

「全身固定時も気道確保を容易にする

ヘッドイモビライザーの考案について」

バックボードで全身固定時に従来のヘッドイモビライザーでは、下顎挙上による気道確保が難しい。そこでバックボード固定時でも気道確保を容易にするためのヘッドイモビライザーを考案しました。



富山北消防署 和合出張所 消防士 荒木孝治

「意識の無い傷病者の両手を固定する器具の

考案について」

救急活動において、バックボードやスクープストレッチャーを使用する際の傷病者搬送時に、傷病者の意識が無い場合、上肢が落下してぶら下がり負傷させる危険性があるため、それを防止する措置が必要になってきます。そこで、この問題点を解決するため、簡易操作で迅速に両手の落下を防止できる器具を考案しました。

